

皆様あけましておめでとうございます。

わたしたちの有田市立病院は、有田地域の皆さんのがんばりが元気な時も病める時も最後まで安楽に過ごしていただけるように医療サービスを提供することを第一としています。本年も皆さんのお役にたてるよう、職員一同力を合わせてまいります。

2025年はコロナ禍により全国の7割の病院が経営に何らかの支障を来していることがわかりました。当院も病院運営には厳しいものがあります。しかし、病院は患者さんや利用される方々のためにありますので、少しでも多く皆さんのお役に立てることがすべてを良い方向に向けられると信じています。

現在新病院が2027年4月の移転開院に向けて建設中です。わたしたちの病院が果たせる役割はどこにあるのかをはっきりさせて、皆さんの役に立てる新病院をスタートさせたいと思っています。

そのために私たちは良い医療を提供しなければなりません。それは医療レベルが良いのはもちろんのこと、職員一人一人の言葉使いや態度、そして相手を思いやる気持ちがたいへん重要なこととなります。その一人一人の力が協働することで良い医療が実現するわけですから、職員が一体となる必要があります。職員が皆さん方を思いやれるのと同じように、職員同士も互いに思いやることができれば、理想の病院像が浮かんできます。これを実現できるようにいつも願い、努力することが今年の病院目標です。

皆様方の指導や助言をいただきつつ、職員はプロフェッショナルを意識して取り組みます。今後も変わらぬご支持を頂けますようお願いいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

参考までにこれからの中野市人口がどう変化するかを示します（数字は概数）。

2025年 2040年

中野市総人口 24520人 → 18400人

65才以上人口 9200人 → 8600人

働き手の人口 12500人 → 8500人

1世帯あたり人口 2.2人 → 1.7人（1人暮らし・2人暮らしが増える）

将来65才以上人口は減るのですが、働き手人口はもっと減少します。これは働き手1人当たり支える高齢者は1人以上になる、つまり支える世代の負担が増えるということです。そのため病院ができる必要な対策は以下の通りとなります。

（1）高齢者の健康寿命をのばすことで支える世代の負担を減らす。健診・人間ドックやリハビリテーションが大きく役立ちます。

（2）医療・介護・福祉の機能分担と集約化です。病院毎の役割分担や集約化が必

要になります。

(3) お元気な高齢者を労働人口に組み入れることです。これは定年延長や再雇用など、働く人の年齢上限を上げることであり、今もすでに取り組まれ始めていることでもあります。